

アートな椅子が リビングのスパイスに

白を基調とした、静謐な空気感が流れるリビング・ダイニング。白く染色した杉板の間仕切り壁の向こうには、キッチンが隠されている。白い内装、モノトーンでまとめたインテリアの中、赤いエッグチェア
の個性的なカラー&フォルムが一際目をひく。

04

上質なシンプルさを極めた アートの映えるギャラリースタイル

Mさんの家 ◎ギャラリースタッフ





モノトーンの中に 温かみを添える素材感

白と黒でまとめられたストイックなダイニング。冷たさが無いのは、内装に使われた木肌のぬくもりと、どこか人に寄り添う温かみある北欧デザインの力。アルネ・ヤコブセンの「セブンチェア」と「アントチェア」を組み合わせ、黒で統一。同じデザイナーの異なるデザインをミックスする、そのインテリアセンスが秀逸。

飾るものとの調和を 図ったディスプレイ棚

階段とリビングの間に設けた間仕切り収納の上は、アートのディスプレイコーナー。ブロンズ像を飾ることを前提に、トップはイタリア製のガラススタイル、エッジはスチールで囲ったデザインに。存在感のあるアートに負けない素材感とデザイン性を備える。アートを照らす、照明の存在も静謐な雰囲気を引き立てている。



木の素材感が生む “ぬくもりあるモダン”

M邸の広々としたリビング・ダイニングは、白を基調としたシンプルな空間。そこには、アルネ・ヤコブセンの名作椅子やブロンズ像、絵画などがさりげなく据えられ、まるで小さなギャラリーを訪れたような心地にさせてくれます。壁を

切り取ったような枠のない窓、視界から隠されたコンセントやスイッチプレートなど、静謐な世界に不必要なものは慎重に排除された空間。その厳しさとは対照的に、空間にやさしさを与えるのは足元の無垢の木や白く染色された杉板の壁。温感をまとうモダンデザインを主題としたM邸からは“心地よいモダン”の理想の形が見られました。



白いフィルターをかけた 木目のほどよい存在感

リビングとキッチンに設けた白い間仕切り壁。キッチンの生活感をリビングへ伝えない目隠しであるとともに、リビングの重要なインテリア要素でもある。木目の強い杉板を白く染色することで、薄くて白いフィルターをかけたような効果が生まれ、モダンデザインにも溶け込むほどよい木質感を得た。「うっすら木目を残すさじ加減が難しかった」と語るMさん。

ミニグリーンで 白い世界を彩る

玄関を入ると最初に目に入るのが、この白い階段。上へのぼるとリビングにつながる。スクエアに切り取られた窓や白いストイックな階段のデザインに、これから始まるM邸の世界観が伝わってくる。窓辺を彩るのは、ミニグリーン。数多く配置しても、ベースの色や大きさ、素材感を統一することで雑然とした印象にならず、静謐な世界にもしっくりなじむ。



ギャラリーを一望する デスクコーナー

キッチンの奥、階段上に設けたファミリーデスクのコーナー。家族が集うリビングやブロンズ像のディスプレイコーナーが一望できる特等席。枠のない掃き出し窓から注ぐ日差しが、白い壁を照らし、空間全体に明るさをもたらす。

ひとつのキーワードで 家具をセレクト

ダイニング側から望むリビング。グレーのシンプルモダンなソファは「カッシーナ」で見つけたもの。赤い「エッグチェア」、リーン・ロゼのサイドテーブルなど、デザイナーはさまざまでも「脚をシルバーで総括することで雰囲気をまとめた」と語るMさん。ひとつの共通キーワードを貫くことは、インテリアを破綻させないルール1つ。



デザインセンスを磨く

上質インテリアの ルール



VIHOME+

[マイホームプラス] 特別編集